

理系工学部材料系の就職活動における思考過程

Things expanded my mind during the job hunting

- Case of a material engineering student -

○石貝 創 (奈良先端大物質)

°Hajime Ishigai (NAIST)

E-mail: ishigai.hajime.ia3@ms.naist.jp

1. はじめに

就職活動を始める時、何も分からず放り出されたような気持ちになったことを未だに覚えている。就職という目的は持つが、どんな会社や働き方があるのかさえ知らなかったので今思えば当然である。

就職活動を行う間に、たくさんの社会人がどのような生活を送っているかを聞くことが出来た。業界が同じであっても、会社毎に雰囲気が違うことを学んだ。私が知らない様々な働き方が存在し、それらは個人の持つ複数の価値観・価値基準をもとに選択されたものであることを理解した。その時、あらためて自分の価値観・価値基準を考えることになった。

今回のシンポジウムでは、理系工学部材料系の私が今後を大きく左右する決断をどのように下したのかを紹介し、これからキャリア選択を考える人々が自発的にキャリアについて考えるきっかけとなる機会を提供したい。

2. 私の変遷

就職活動初期、私は自分の専門を活かすことが出来る研究者や技術者になりたいと思っていた。しかし、専門を活かして具体的に何が出来るかを考えると選択肢が少ないことに気付く、必ずしも専門にとらわれないことが必要であると考えるようになった。

就職活動の練習を兼ねて、分野に関わらずに説明会やインターンに参加すると、私のやりたいことや私に合う仕事のイメージが次第に出

来上がっていった。その後、いくつかの会社への応募を経て、外資系多国籍企業の大型のターボを取り扱うアプリケーションエンジニアになることを選択した[1,2]。

3. キャリアの選択理由

就職活動と研究生活を通して、「研究者として研究をする」もしくは「社会人として働く」、どちらも、多くの人々との関わり合いによって成り立っていることを実感した。

その関わり合いを国内のみで終わらせてしまうことは多くの機会を失っているのと同値ではないかと考えるようになった。

そのため、ビジネスにおいても日本に縛られずに仕事が出来るといった英語力やコミュニケーション能力を身に付けることが出来る環境を選んだ。

4. 将来を描くには

キャリアを考えることに早すぎることはない。早い段階から社会人に対して、今のような仕事をしているのか、やりがいはいかなど質問をする、もしくは調べてみてほしい。将来のキャリアにおける仕事と私生活がどのようになっていくか考えてみると、最初に抱いている印象との違いが出てくる。その繰り返しの中で次のキャリアのイメージを作り、目標に向かって必要なことを準備することが重要である。

[1] TSU HP, <http://www.turbo.co.jp/>

[2] ABB in Japan HP, <http://www.abb.co.jp/>